Museo de Naturales de Geihoku

高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第 130 号
2014.11.15
高原の自然館

苅尾（かりお）とは，広島県北広島町芸北にある山の名前です．
一般には臥竜山として知られていますが, 地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています．

## もくじ

**おしらせ**

ー冬期休館について

**活動報告**

ーサツキマスの産卵床整備
ーキノコ観察会
ー紅葉・冬芽の観察会

**観察会案内**

ーかんじき作り
ー冬をいきる動物たちの生態
ー雪原のトレッキング

## おしらせ

**●冬期休館についてのお知らせ**

11 月 25 日から高原の自然館は冬期休館となります．休館期間と連絡先は以下の通りです．

冬期休館期間：11 月 25 日～ 4 月 24 日
休館中連絡先：北広島町役場芸北支所 2 階
高原の自然館研究室
〒 731-2323
広島県山県郡北広島町川小田 75
TEL：080-6334-8601
FAX：0826-35-0386
E-mail：staff@shizenkan.info
※ 平日（月～金）の 9:00 ～ 17:00 まで

# 観　察　会　報　告

## ●サツキマスの産卵床整備

開催日時：2014 年 10 月 4 日（土）9:30
講師：内藤順一

良く晴れた秋らしい天候の下，サツキマスの産卵床整備が実施されました．今回の講師は内藤先生です．3 名が八幡高原センターに集合し，サツキマスについて事前学習を行いました．サツキマスは，アマゴが海に降り成長してマスとなったもので，8 割程度がメスだそうです．八幡では，聖湖を海に見立てて降り成長する「降湖型サツキマス」が，産卵のために遡上しますが，農業堰で阻まれたり，アオサギなどの捕食者の存在により，産卵が難しい状況にあることを聞きました．

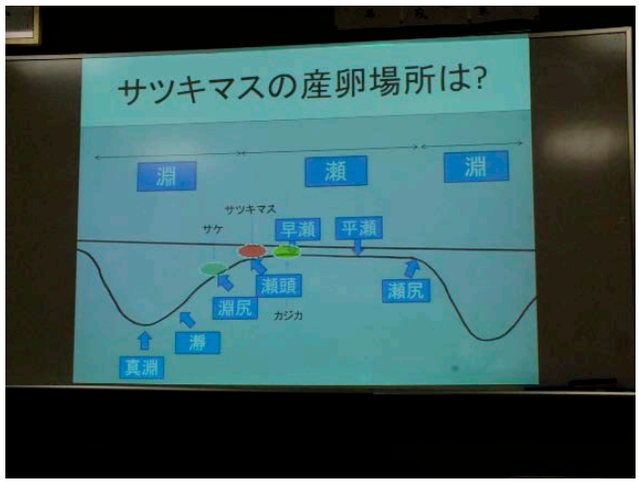
次に内藤先生が撮影された産卵行動の映像を視聴しました．オスがメスの行動を真似て，他のオスに放精をさせようとするシーンや，体の小さなアマゴが，産卵の瞬間を狙って素早く入り込んで放精する「スニーキング」と呼ばれる行動，産卵した場所に近づいた他のメスを追い払う場面等，様々な方法で自分の遺伝子を残そうとしている姿が印象に残りました．

整備の前に，遡上しているサツキマスの観察を行いました．事前に内藤先生が場所を確認されており，そこでは，オスとメスがペアで泳いでいる姿や，川底の砂礫が取り除かれ，小石の白さが目を惹く産卵床と，そこで産卵をした後に力尽きた個体を観察しました．

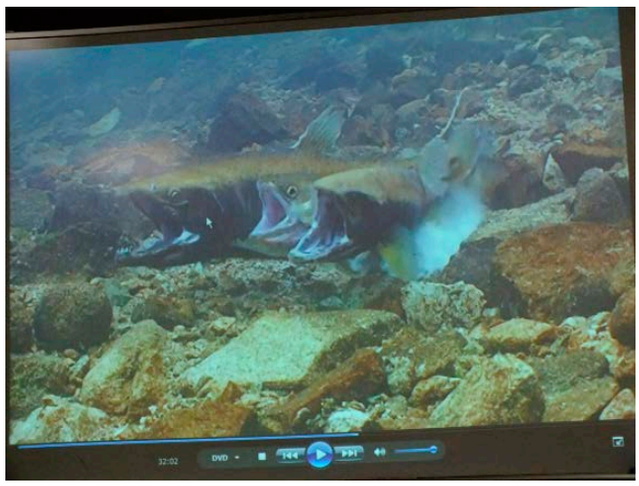
観察の後は，産卵床の整備を行います．瀬頭（せがしら）と呼ばれる，水深が浅くなり，波が立つ場所の手前に産卵します．まずは，川底の整備です．大きな石を取り除き，代わりに周りの小石を拾って散りばめます．取り除いた石は，産卵床が 2 箇所できるよう，瀬頭の中央に縦に並べておきました．次に，整備した場所の上にテグスを張ります．これは，産卵床に野鳥が入らないようにするためで，両岸に渡しながらジクザクに張り，途中，川の上に差し掛かる毎にビニール紐を結んでいきました．

10 月 13 日は，同川にてサツキマスの保全活動が実施されます．その活動で遡上したサツキマスが，整備した産卵床で泳いでいる事を期待しながら整備活動を終えました．

（ありみつまさかず）




サツキマスの産卵場所をスライドで説明．サケやカジカとの場所の違いも教えていただいた．



内藤先生が撮影された映像を視聴する．産卵の瞬間に口を大きく開ける姿に力強さを感じた．

整備前に遡上しているサツキマスを観察．警戒されないように，川辺から離れて静かに歩く．

サツキマスのペアが泳いでいた！手前の個体がメスとのこと．

続いてテグスを張る．両岸で釘を使って固定し，中央にビニール紐を結ぶ．

整備場所へ到着．内藤先生から手順を説明していただく．

整備を終えた産卵床．サツキマスが産卵してくれることを願った．

整備開始．前日に雨が降ったため，少し水かさが増え，水温も低かった．

**みなさんの印象に残った物】**

「ペアのサツキマスが見れたこと」「整備前に観察した，サツキマスのペア」

**【参加したみなさんの感想（抜粋）】**

「産卵床作り．たくさんの産卵を期待してる！」「整備した場所に，産卵してくれるとうれしいですね」

# 観　察　会　報　告

## ●キノコ観察会

開催日時：2014 年 10 月 18 日（土）9:30
講師：新谷正信

八幡高原に霜がおり，冷え込みが続く季節となりました．秋と言えばキノコ．キノコの生態が学べるキノコ観察会を実施しました．

9 月にキノコの写真展をされた新谷先生が今回の講師です．

最初にキノコの採取法や取り方のコツを教えていただきました．同定するために，出来るだけ全形があったほうがよいとのことで，そっと扱うように注意がありました．

さあ，いよいよキャンプ場内にキノコ探しです．木の根の近くやササの中などを思い思いに探し，一時間後に集合しました．

夏の長雨のせいか，キノコの数や種類が少なめでした．その分，一種類ずつの解説を細やかに聞く事ができました．

毒をもつアケボノドクツルタケやアセタケ属の一種，ニガクリタケ，食用可能なハツタケ，オウギタケ，アブラシメジ，ムラサキアブラシメジモドキ，その他にも，オツネンタケモドキ，アカカバイロタケなど，それぞれの特徴を解説いただきながら，31 種類を確認しました．

新谷先生からは，キノコの役割は分解者であり，生態系の中でも重要な役割をもっているとのお話に，参加者は大きくうなずきながら耳を傾けていました．

キノコの種類はとても多く，まだ名前のついていないものも多いそうです．マイナーな存在に扱われるキノコですが，観察会などで学んだ事を通して，科学的にキノコを見る目をもって欲しい，と新谷先生からの言葉がありました．

見分け方も難しいキノコですが，まず毒をもつものと，食べて美味なものから覚えていくといい，というアドバイスもいただきました．

フィールドで専門家に学び，それが生態系を守る知識や意識に結びつくよう，これからも楽しく学べる観察会を開催したいと思います．

（こうのやよい）

※今回の観察会は，SAVE JAPAN の取り組みにより，実施しました．
※集合場所の誤表記によりご迷惑をおかけしました．お詫びいたします．

講師の新谷先生．約 40 年前からキノコに興味を持ち，調査されているとのこと．

参加者も図鑑を持ってじっくり学ぶ．

じっくり目をこらしてキノコを探す．

マツボックリからキノコが！！

参加者で記念撮影.

キノコの種類は少ないと聞いていたが，けっこうたくさん集まった！

猛毒のアケボノドクツルタケ．白色がきれいなキノコ.

**【みなさんの印象に残った物】**

「ドクツルタケの話」「キノコの数が少なくて残念でした」「きれいな食べられるキノコもあると分かったこと」「とても良い天気でしたが，キノコが少なく残念」「マツタケがなかった」「キノコの名前の覚え間違えがあった」「ツキヨダケを見たかった」「チャナメツムタケが食用であった事（自分が採ったものだったので）」「キノコが少ない」「キノコの説明」「キノコが不作だということ．ものすごい種類があるというお話」「キノコの説明」「思ったほど量がなかった」

**【参加したみなさんの感想（抜粋）】**

「あまりキノコ採れなかった．残念」「また参加したいと思います」「今年で３年目です．冬虫夏草が見つけられませんでした．また来年，楽しみにしています」「また参加したいです」「山歩きをしました．とても楽しい時間でした」「天気も良く大変楽しかったです」「本当に楽しかったです」「とても勉強になった」「毎年お願いします」「今年はまた新しい話が聞けてよかったです」「夏の長雨がキノコが少ない原因であることが分かった」「キノコの発生が少なくて残念でした」「キノコが分解者として，生態系の中の重要な役割を担っているというお話が，とても良かったです」「知らないことばかりで，とても良かった．キノコの世界の奥は深いです」「とっても勉強になりました」

# 観　察　会　報　告

## ●紅葉・冬芽の観察会

開催日時：2014 年 11 月 3 日（月・祝）9:30
講師：斎藤隆登

麓の紅葉が鮮やかさを増していく中，紅葉と冬芽の観察会が実施されました．今回の講師は植物の専門家の斎藤先生です．高原の自然館に 20 名の参加者が集合しました．

事前学習として，斎藤先生から，冬芽についての解説と，冬に植物を観察する際のポイントをお話いただきました．冬芽は，夏や秋には既に出来ていて，寒い冬を越す為，芽鱗（がりん）と呼ばれる皮や毛，樹脂等に覆われています．樹木ごとに冬芽に特徴があり，葉や実，樹皮と一緒に覚える事で，冬の間も植物観察を楽しめるようになります．また，春になると，芽鱗が剥がれ落ち，芽鱗痕（がりんこん）という痕ができます．枝先から芽鱗痕へ辿ると，その枝が 1 年の間に成長した長さが解るそうです．

事前学習の後は，観察場所へ向かいます．掛頭山山頂へ車で移動し，そこから，芸北国際スキー場のリフト降り場へと歩きます．先生お手製の図鑑を手に，ルーペを使って観察します．山頂付近は，わずかに葉が残っている樹木が多く，冬芽と葉を一緒に観察するには良い時期だそうです．

花と葉の 2 種類の冬芽をつけるクロモジや，枝先から左右上下に冬芽をつけて枝を伸ばし，効率よく日光が当たる枝以外を落としていくヤマボウシ，芽鱗のない裸芽（らが）と呼ばれる冬芽をつけるオオカメノキ等を観察しました．

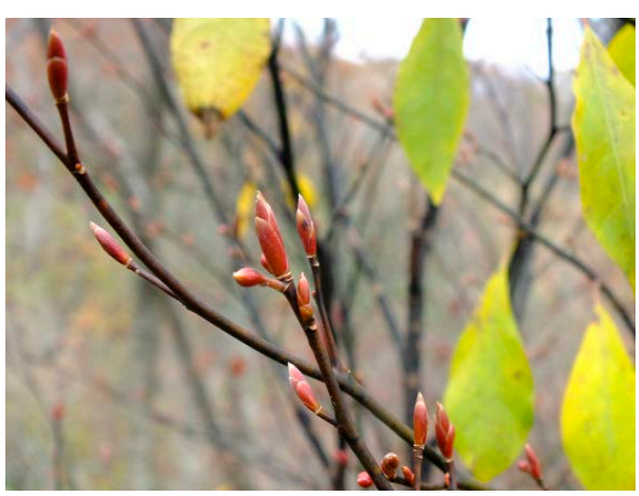
スキー場のリフト降り場に到着し，麓に広がる紅葉に歓声を挙げながら，テレビ中継所の鉄塔へ足を進めて観察を続けます．

大きな冬芽を，鉛筆のキャップのような芽鱗で覆うホオノキや，枝に半ば埋もれたような冬芽が姿を見せるヌルデ，赤紫色の枝と湿布のような匂いが特徴的なミズメ等が見られました．他の季節では見分けにくい植物も，冬芽だと見分けがつきやすい場合があることを聞き，熱心にみみお参加者の姿が見られました．

様々な形の冬芽を，ルーペを使って観察したり，冬芽を覆う芽鱗の感触を確かめたりと，植物達の冬の姿を，楽しみながら学ぶことができた観察会となりました．（ありみつまさかず）

ブナとイヌブナを見比べながら，冬での植物の観察ポイントを説明する斎藤先生．

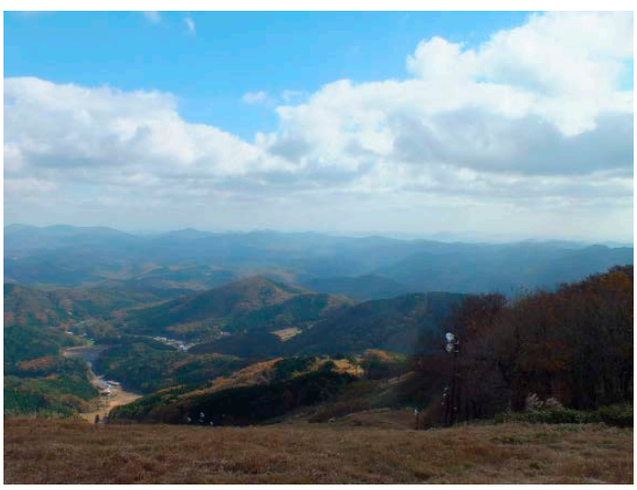
ルーペを使って細部まで観察する．



クロモジの冬芽．2 種類の冬芽をつける．丸いものが花，細長いものが葉となることを聞いた．

葉柄が落ちると観察しやすい，ヌルデの冬芽.

ウワミズザクラの冬芽を観察．落ちた枝の脇から冬芽が出ていた.



スキー場のリフト降り場付近から，麓の紅葉を眺める.

落ち葉の絨毯の上を歩く．カサカサと軽い感触と音が気持ちいい.

**【みなさんの印象に残った物】**

「様々な木の存在に感動しました」「いろいろな種類の冬芽が見れた」「冬芽で何の木かわかること」「芽の大きさ，つくりの違いです」「寒さと，植物の元気さ．来年の為の用意をしていたのに感心」「しっかりと冬芽が見れました」「コシアブラとタカノツメを維管束の数で見分けられる」「マタタビとサルナシの冬芽の違い」「赤いヤマヤナギの芽」「木の芽について，初めて見させて頂いて良かったです」「途中の紅葉が良かった」「ササに種類があったこと」「リョウブをご飯に混ぜて食すという体験談」「芽鱗痕で，今年伸びた枝，去年伸びた枝が分かるという点が興味深かった」「いろいろな葉の紅葉」

**【参加したみなさんの感想（抜粋）】**

「木の名前を知ることができて良かった」「いろいろな植物の名前が覚えられた」「面白かったし，勉強になりました」「冬でも春の芽吹きに向けて準備していることです」「とても寒いが，勉強になりました」「とても寒かった（2）」「寒かったですが面白かった」「冬の楽しみ方が増えた」「寒い中でも良かったです」「木が好きになりました」「木の構造がよくわかりました」「寒かったですが，いろいろ勉強になりました」「寒かったが，この時期にしか聞けないことが多く，とても参考になりました」

# 観　察　会　案　内

観察会に参加される時には，次のようなものを持参してください．カメラ，双眼鏡，ルーペ，図鑑などもあれば，楽しいと思います．

**基本セット：**山を歩ける服装，雨具，飲み物，おやつ，筆記用具，メモ帳
**作業セット：**作業ができる服装，長靴，軍手，雨合羽，飲み物，おやつ

## ● かんじき作り

開催日時：2014 年 12 月 6 日（土）10:00
集合場所：八幡高原センター
講師：坂井健作
準備：作業できる服装
定員数：30 名
参加費：一般 =300 円
　　賛助会員 =100 円
　　正会員・中学生以下 = 無料
材料費：1,400 円

昔の冬の必需品「かんじき」を作ってみませんか「きたひろしまの達人」に認定された，坂井健作先生から作り方を教えていただきます．今年の冬は，自分で作ったかんじきで，雪の上を歩く楽しみができますよ！

## ● 冬を生きる動物の生態

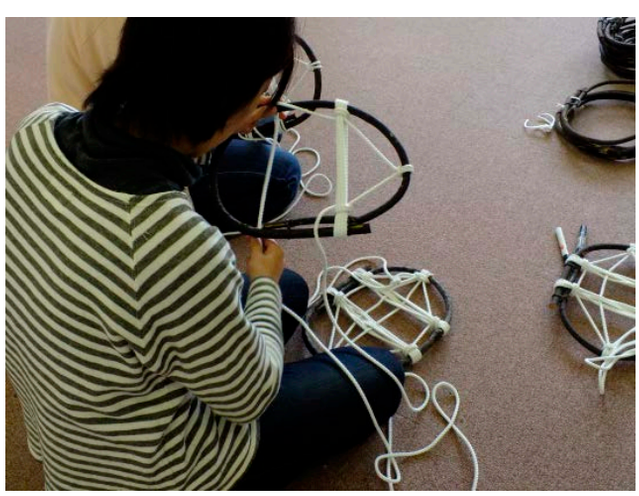
開催日時：2015 年 1 月 17 日（土）10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット，双眼鏡，スノーシュー・かんじき
定員数：30 名
参加費：無料（広島県生物多様性普及啓発人材育成事業の支援を受けて実施します）
かんじきレンタル：400 円

雪に閉ざされた八幡高原を，動物たちの痕跡を探して歩きます．雪の上をよく見ると，足跡や食痕などから，どんな動物が活動しているのかが分かります．暖かい服装と，雪の上を歩く為のスノーシューやかんじきをご用意下さい．

## ● 雪原のトレッキング

開催日時：2015 年 2 月 8 日（日）10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット，双眼鏡，スノーシュー・かんじき
定員数：30 名
参加費：一般 =300 円
　　賛助会員 =100 円
　　正会員・中学生以下 = 無料
かんじきレンタル：400 円

真冬の八幡高原はどんな姿を見せてくれるのか，スノーシューやかんじきを履いて歩いてみましょう．動物達の足跡や食痕などのフィールドサインの他，ユキグロカワゲラやトビムシなどの雪の上で生活するユキムシも探してみましょう．



紅葉で賑わっていた木々もすっかり葉を落とし，秋から冬へと季節が変わり始めています．リンドウやアキノキリンソウも姿を潜め，もう間もなく，八幡に雪が降るでしょう．高原の自然館は，11 月 25 日から 4 月 24 日まで冬期閉館となります．今年も，多くの方にご来館いただき，ありがとうございました．また来シーズン，高原の自然館でお会いしましょう．
（ありみつ）

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先
（ご意見・ご感想もお待ちしています）

**高原の自然館（こうげんのしぜんかん）**
〒 731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax：0826-36-2008
http://shizenkan.info/
staff@shizenkan.info